

一九三八年一〇月にアメリカのラジオ放送の音楽番組の最中、農村地帯に多数の隕石が落下しているという緊急情報が放送され、さらに火星の高等生物が襲来しているという内容になり、各地でパニックが発生した。実際は異才の俳優・映画監督のO・ウェルズの製作したドラマ番組であったが、巧妙に構成されていたため多数の人々が信用し騒動になった。

一九六七年八月に京都地方裁判所鬼頭史郎判事補が検事総長の名前を詐称して三木武夫首相に電話し、当時、話題となっていたロッキード事件の処分について虚偽の情報を伝達して首相の反応を探查し、録音した会話の内容を新聞記者に記事にさせようとした。情報は偽物と発覚し、謀略事件として報道され話題になった。

このような偽装工作は音声では可能であるが、大量の情報処理が必要な画像、さらに動画であれば容易ではないと予想されていたが、コンピュータの画像処理能力が高度になり、しかも人工知能を駆使して動画を制作する技術が格段に発達したため、最近、悪用される事件が次々と登場するようになっていく。

今年六月、ウクライナのキーウのV・クリチコ市長からの要請でベルリンのF・ギファイ市長はビデオ会議で対談した。プロボクシングの世界王者であったクリチコ市長の精悍な画像は一見すると実像のようであったが、ギファイ市長は途中で疑問をもち対話を中止した。画面のクリチコ市長はコンピュータ制作の偽物であった。

これは途中で露見したが、それ以前、ウィーンのM・ルートヴィッヒ市長はクリチコ市長とビデオ会議で対談したが、何日かして、相手はコンピュータ画像であったことが判明した。しばらくして、これらの対談に登場したクリチコ市長はコンピュータで偽造された画像であることをウクライナ政府が確認した。

このような画像はディープフェイク(高度な偽物)と命名されて研究室内では以前から開発されていたが、最近では十分に実用になる精度になってきたということになる。最初は有名女優のポルノ動画などに利用されていたが、次第に政治利用やビジネス利用が顕著になり、深刻な事態が発生しつつある。

このディープフェイクが最初に社会の話題になったのはアメリカの大統領選挙運動中の二〇一八年である。バイデン候補が幼児に異常な関心があり、同性愛者とも仲良くしている写真が氾濫したことがある。さらにオバマ前大統領がトランプ候補を卑下しているような演説をしている捏造された動画もネット環境に登場した。

今回のウクライナとロシアの紛争は情報戦争であり、敵軍の動静や兵器の位置などを正確に把握する情報収集能力が戦況を左右しているが、同時に情報宣伝活動も重要な戦力になりつつある。太平洋戦争中は日本の東京ローズというラジオ放送が音声で情報宣伝活動をしていたが、現在ではディープフェイクが代替している。

仮想空間であるメタヴァースが一気に流行しはじめている。ここでは自分の分身のAvatarが活動するが、それらがディープフェイクで創造され、本人の意思と関係なく行動する社会も十分に予想される。ベルリン市長が相手を偽物と気付くのに約一五分が必要であったように、本物と偽物を見分けるのは容易ではない。高度な情報リテラシーが必要な時代である。